

「家に居場所のない妻」 ～完全な奴隷状態のDV被害者～

- 仮名：Aさん
- 年齢：35歳
- 性別：女性
- 夫婦間DV

【夫婦の異変】

ある日、30代半ばの女性が駆け込み寺にやって来た。話を聞くと、今の夫とはお見合いで知り合い結婚。結婚と同時に退職し、専業主婦になったという。夫は企業で中間管理職として勤めているが、もともと無口で引っ込み思案という性格もあり、上からも下からも責められるようになり、おまけに自分自身の仕事も業績が思うように進まずにいた。仕事で疲れて帰宅する夫のために、Aさんは一生懸命家事をこなし、夫の体調管理についても努力し尽くした。夫も優しくしてくれていた。夜の生活はもともと少なく、子供もいなかったが、ささやかながら幸せを感じていた。しかし、そんな幸せな生活が壊れたのは結婚4年目が過ぎた頃だった。

【夫の豹変】

その日、夫はかなり泥酔し若い女性に介抱されて帰宅。Aさんが女性にお礼を言い、夫を居間に入れようとするとうささんを突き飛ばし、「うるさい！あっちいけ！」と怒鳴った。夫は倒れたAさんを尻目に、そのままベッドに倒れ込んだ。初めて手を挙げ暴言を吐いた夫に、Aさんは「きっと仕事のストレスで疲れが溜まっているんだろう」と、事情も聞けずそのままにしておいた。翌日、夫は何事も無かったように仕事に出た。それから夫は、度々泥酔して帰宅するようになった。そして、その度Aさんに暴力を振るうようになり、無抵抗なAさんの様子を見て、夫の暴力も暴言もエスカレートするようになっていった。夫は、何かタガが外れたように彼女を暴力で支配する。突き飛ばし、殴る、蹴る。髪の毛を引っ張る。酔って帰宅すると、必ず暴力を振るわれた。生傷が絶えず、傷が治らないうちに次の傷ができる…。

【奴隷状態】

ある日、夫は若い女を連れて帰って来た。殴られると思うと何も言えない。夫は女に「こいつは俺の奴隷だから」と言い放った。その日から女は頻りに家に来るようになった。数日泊っていくこともある。夫は、夫婦のベッドで女と寝るようになった。妻であるAさんがいようと関係ない。夫は、夫婦のベッドで女と寝た後、Aさんに「おい、俺たち2人分のメシ作れ」と命令することもあったという。Aさんは既に夫が恐怖だったため、反抗するすべもない。まさに、彼女は奴隷、召使状態と化していた。彼女にとって、夫はもう夫ではなくなっていた。日常茶飯事に暴力を振るわれ、若い女と浮気され、肉体も精神もボロボロになっていた。そのうちAさんは、夫に対して憎悪を抱くようになり、殺意を覚えるようになっていく自分に気づき、いつかテレビで見た「駆け込み寺」にやってきたのだ。

【DVに対応する機関がある】・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・

この手の事例は、状況が少し異常なだけで、構造的には単純なDV。まずは、Aさんの話をしっかり聴き、意思を確認した。Aさんははっきりと離婚を望んでいた。そこで、Aさんの記憶にある限りの夫の暴力の記録を、日付も含めてなるべく正確に書き出してもらい、夫に電話した。夫はこの間、Aさんが帰って来ないことに激昂している。こちらはまず、夫の言うことを最後まで聴いた。夫は、「人の女房さらってどうするつもりなの？警察に訴えるよ」「早く女房を返してくれ」などと言い、これまで自分がやってきたことを棚上げしていた。夫の主張が一通り終わると、こちらは平成16年に改正されたDV防止法の内容を夫に説明し、Aさんを配偶者暴力支援センターに行かせると伝えた。夫は「世間体」を気にし、必死にAさんを引き留めるよう説得してほしいと懇願してきた。しかし、そんなことは知ったこっちゃない。そもそも、弱い女性に暴力を振るっておいて世間体なんてことは言わせない。その後、Aさんはシェルターで宿泊した後、地元の支援機関に赴いて行った。



日本駆け込み寺では、DV被害者だけでなく加害者からのご相談も承っております。また刑務所出所者（あるいはそのご家族）からのご相談も受け付けております。何かあったら03-5291-5720までお電話を。

※画像は2013年のトーク&ライブで対話するPaix2様と玄秀盛。Paix2様は刑務所や厚生施設での慰問公演を320回（2013年4月現在）以上されています

※